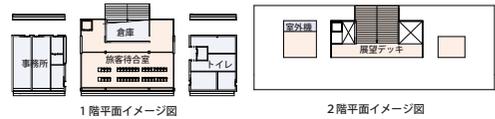


テーマ3「魅力的でありかつ合理的で実現性の高い施設づくり」

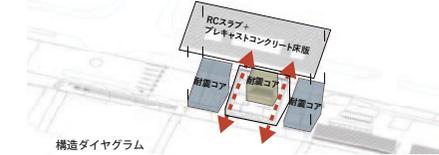
06 海とまちを結ぶ透過性のあるターミナル

観光・地域交流センター倉庫、事務所、トイレの3つのボリュームを耐震コアとしたRC造とすることで、待合者が集うエリアを耐力壁のない開放的な空間とし、海と島々を一望する透過性のあるターミナルを実現します。コアの間にはまちと海をつなぐエントランスパスを配置、堤内・堤外の見通しや回遊性を高めるとともに通風を確保し、透過性を生み出します。旅客待合室では、「維持管理のしやすい」天井面の木質化によって温もりある空間とし、木のブースやテーブルを適所に配置することで、待合時間を快適に過ごせる空間とします。ターミナル建屋は既存建物と同様、腰壁を利用して**海岸保安施設(胸壁)**に代えて、海の景観を額縁のように切り取ります。

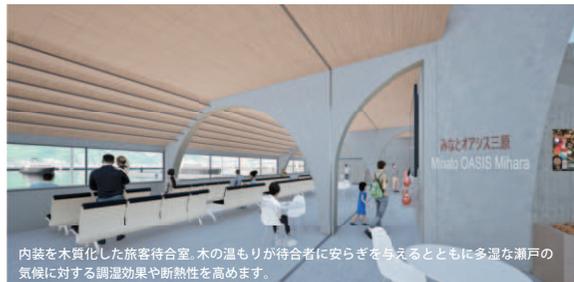
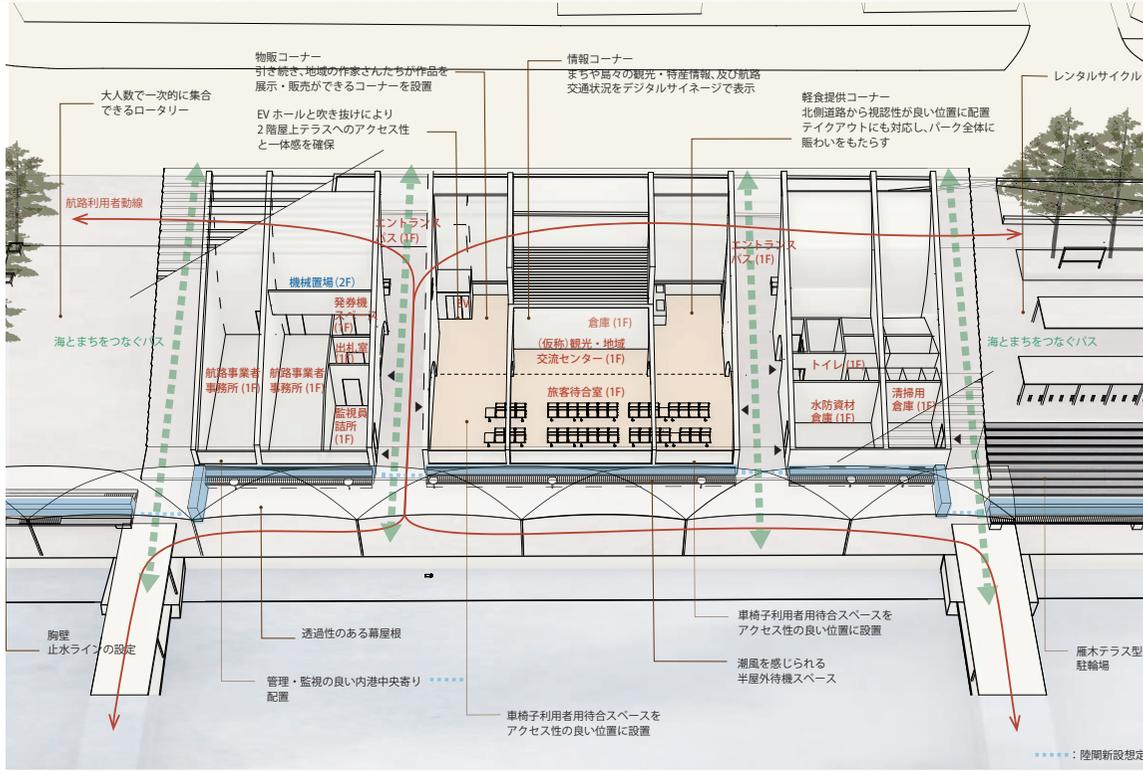


07 施工性やコストを考慮した構造計画

雁木には高耐久のPC段床を用いることで、8m スパンを架け渡しや4m 程度の跳ね出しの実現を可能とし、柱や梁を削減します。テラス及び雁木下が屋内となる箇所には防水や断熱の納まりのためにRC屋根スラブを計画します。RC 打設時に段床製作を同時進行させることが可能であり、工期短縮、現場作業の削減によるコスト削減に努めます。また、外構の雁木デッキも建物と同一断面の PC 段床とし、製作を効率化することで**コスト削減**を図ります。



既存ターミナルの胸壁と建屋をかねる防潮ラインの設定を継承、合わせて堤外にも雁木デッキを設置、潮風を感じながら船の来航を待つことができます。



内装を木質化した旅客待合室。木の温もりが待合者に安らぎを与えるとともに多湿な瀬戸の気候に対する調湿効果や断熱性を高めます。



海とまちを繋ぐエントランスパス。透明性の高いエントランスは、街に潮風を運び、北側道路から常に海を感じられます。

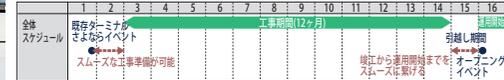
08 快適な内部環境を作る雁木の大屋根

大きな高低差のある雁木の勾配屋根が、南面の直達日射を遮り、北側の安定した光を取り込むと共に、自然風を利用した効率的な重力換気を実現し、四季を通じて快適な内部空間を実現します。施設全体に省エネルギー化を図り**ランニングコスト**を抑えて、ZEB ready 取得を目指します。トイレ棟は、自然風と勾配天井を利用した自然換気により、冷暖房を不要とし、臭気対策として機械換気を行うハイブリッド空調を採用します。万が一の浸水を考慮し、地下ピットは設けず、室外機をはじめとした各設備を2階レベルに設置します。展望デッキや雁木屋根を介して容易にアクセスでき、日々の**メンテナンス**に適した計画とします。

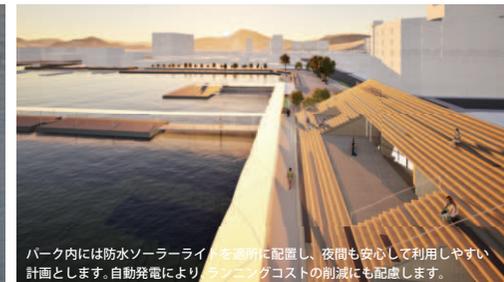


09 工事中もターミナル機能を担保する建替計画

ターミナル施設を、現在の航路桟橋と民用地橋の間に収めて配置し、工事期間中に西側エリアをターミナルエリアとして利用する間も、工事動線とターミナル利用者の干渉を防ぎ、**旅客船利用者の利便性を損ねることのないよう配慮**します。



▽施工床面積表		概算工事費	
区分	床面積	数量	金額(千円)
旅客待合室	120.00	1式	25,000
事務所	120.00	1式	116,500
トイレ	12.50	1式	25,000
展望デッキ	12.50	1式	124,300
その他			12,100
合計	277.00		598,950
その他			200,000
合計			798,950



パーク内には防水ソーラーライトを適所に配置し、夜間も安心して利用しやすい計画とします。自動発電によりランニングコストの削減にも配慮します。